

【令和6年度の指標実績に対する意見等一覧表】

No.	指標名	現状値 (2024(令和6)年度)	目標値 (2026(令和8)年度)	R6年度の 実績値・目標値		R6年度 目標 達成・ 未達成	委員からの御意見・御質問等	指標担当課からの回答
1	県内「自然共生サイト」の認定数 (累計)	9件	12件	実績	9件	達成	【意見・質問】 ①認定した時点では管理体制があると思うが、時間が経過しても同じように保全できるのか、保全できなくなった場合の扱いはどうなっているのか。 ②公有地の自然共生サイト認定は、広く県民への普及啓発の意味合いはあるが、公有地である時点で、土地の担保性をそれ以上高めることにはつながらない。R6年度までに県有地の認定は達成しているので、さらに県有施設の自然共生サイト認定を目指すのではなく、担保性の向上に直結する民有地での認定支援に注力すべきと考える。 【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	①自然共生サイトは、認定後も活動の効果を図るために、概ね5年に1度、モニタリングを実施し、その結果を国へ提出することが求められます。このモニタリングによって、時間の経過とともに保全が維持されているかどうかを確認し、必要があれば活動を改善していくこととされています。 ②今年度は、埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム内に、新たに「ネイチャーポジティブ推進分科会」を設置し、企業を含む様々な主体に生物多様性の意義や取組の重要性を理解してもらうためのセミナーの開催や、企業と自治体、保全団体等との交流の場を設ける取組などを行うこととしています。こうした枠組みを活用して、企業、団体等に対する自然共生サイトの取組事例等の情報提供や技術的支援等を通じて、民有地の認定増加を推進してまいります。
				目標	6件			
2	希少野生動植物種の新規保護増殖箇所数 (累計)	7箇所	10箇所	実績	7箇所	達成	【意見・質問】 ①R7取組計画中の「生物科」の記載は、「生活科」ではないか。 ②指定して以後の管理体制が、継続的に機能しているか。 ③保護増殖は最終手段で、生育地保全によって当該種が自力で増殖できる状態を保つようになっているか。 ④実績7箇所のうち動物と植物の区分を教えてください。動物で実行しているのはムサシミヨのみのなか。 【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	①生物に関連する教科等を対象としているという意味で「生物科」と記載しています。 ②県へ自生個体捕獲の届出を行った上で保護増殖を行った事例に関しては、以降数年は実績報告書を提出することとし、経過を確認できる体制をとっており、継続的に機能していることを確認しています。 ③生育地では保全団体等が主体となり、当該種が自生し続けることができる環境を整備しています。 ④内訳は植物6箇所、動物1箇所です。新規保護増殖箇所のうち、動物種の実績は、ムサシミヨのみです。
				目標	6箇所			
3	県内における特定外来生物に関するリストの作成・見直し	1回/年	1回/年	実績	1回/年	達成	【意見・質問】 ①リストアップの対象を何故「特定外来生物」に限定しているのか。今年度、国では侵略的外来種リストの改訂を行っており、その中には特定外来生物以外の外来種も掲載されている。せめて、国のリストに掲載されている種については、埼玉県でもリスト化し、県内への侵入や定着の予防等の対策はした方が良いと考える。 【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	①特定外来生物だけでなく、侵略的外来種を含めたリスト化を進めています。(R6年度末,県内市町宛に特定外来生物及び侵略的外来種の確認状況について照会済み)
				目標	1回/年			
4	ニホンジカ個体数	12,918頭	4,450頭	実績	12,918頭 (R5推定値)	未達成	【意見・質問】 ①適正個体数の根拠は何か。 ②県戦略記載の目標値と年度別目標値（R8）の数値が異なる理由は何か。 ③捕獲した個体をどうしているか。 ④減少数が少なく、特に進捗が悪い。捕獲数と確認数を見ると手段が不足ではないか。	①環境省が示している「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」において、農林業被害や自然植生被害を抑制するため、平成23年度の個体数から半減させることが目標とされており、本県が目指す適正個体数もこれに準じた考えとしています。 ②県戦略では、令和3年度に策定した第3次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画（ニホンジカ）に基づき、平成23年度の推定個体数の半減である4,450頭を令和8年度の目標値としました。各年度の目標値については、計画で示す毎年4,000頭の捕獲を継続した場合の将来予測個体数を記載しているため、令和8年度の推定個体数目標値（4,450頭）と予測個体数（3,582頭）で異なる数値となっています。 ③搬出して焼却又は現地での埋設処理をされているものが多いです。一部はジビエ等に活用されています。 ④目標値を達成するためには、今まで以上に高い捕獲目標を定め、対策を強化していく必要があります。しかし、年々ニホンジカの生息数が減少して捕獲の難易度が高くなっていることや、標高の高い地域など捕獲困難な場所に生息域が拡大していることなどから、これまでと同じやり方で捕獲数を増やすことは容易ではありません。そのため、ニホンジカの生息密度が高い高標高地域での捕獲の強化やドローンを活用した捕獲効率の向上など、より効率的・効果的な対策について検討していきます。
				目標	7,850頭			
5	イノシシ個体数	1,683頭	1,540頭	実績	1,683頭 (R5推定値)	達成	【意見・質問】 ①適正個体数の根拠は何か。 ②県戦略記載の目標値と年度別目標値（R8）の数値が異なる理由は何か。 ③R5年に比してR6年の実績値が増えているのは何故か。 ④R7からR8にかけて、目標頭数を増やしている理由は何故か。 ⑤目標値の根拠は何か。 ⑥捕獲した個体をどうしているか。	①環境省が示している「抜本的な鳥獣捕獲強化対策」において、農林業被害を抑制するため、平成23年度の個体数から半減させることが目標とされており、本県が目指す適正個体数もこれに準じた考えとしています。 ②県戦略では、令和3年度に策定した第3次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画（イノシシ）に基づき、平成23年度の推定個体数の半減である1,540頭を令和8年度の目標値としました。各年度の目標値については、計画で示す毎年500～1,500頭の捕獲を継続した場合の将来予測個体数を記載しているため、令和8年度の推定個体数目標値（1,540頭）と予測個体数（1,676頭）で異なる数値となっています。 ③イノシシは繁殖力が高く毎年の繁殖状況の振れ幅も大きいです。近年増加傾向が見られたのは、令和元年度からの豚熱による急激な減少からの一時的な反動と考えられます。平成27年度の埼玉県第二種特定鳥獣管理計画(イノシシ) 策定以降捕獲を継続しており、それ以降の期間で見ると減少傾向となっています。 ④質問②への回答のとおり第3次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画(イノシシ)に記載されている将来予測に基づいて設定したものです。令和7年度には目標水準(1,565頭)まで減少させることが予想されることから、令和8年度の捕獲水準を低く設定したため少し増加しています。 ⑤国においてイノシシ生息数を平成23年度の数から半減させる目標が設定されていることを踏まえ、本県も同様に第3次埼玉県第二種特定鳥獣管理計画(イノシシ)において平成23年度の推定生息個体数の半減を目標として設定しており、戦略の目標値はこれに準じています。 ⑥搬出して焼却又は現地での埋設処理をされているものが多いです。一部はジビエ等に活用されています。
				目標	2,205頭			

【令和6年度の指標実績に対する意見等一覧表】

No.	指標名	現状値 (2024(令和6)年度)	目標値 (2026(令和8)年度)	R6年度の 実績値・目標値		R6年度 目標 達成・ 未達成	委員からの御意見・御質問等	指標担当課からの回答
6	環境保全型農業直接支払制度の実施面積	273ha	322ha	実績	273ha	達成	【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	
				目標	266ha			
7	埼玉県生物多様性情報プラットフォームへのアクセス数(累計)	64,870回	20,000回	実績	64,870回	達成	【意見・質問】 ①目標値の設定が低いのではないかな。	①R4年度当時のプラットフォームへのアクセス数は年間5,000件を下回っていたため、R5年度の目標として年間5,000件を設定しました。しかしながら、生物多様性に係る情報検索について、現在では多くのアクセスをいただいております。当初の目標値設定は妥当であると考えておりますが、今後は現在のアクセス数を注視しながら、目標値の見直しを行ってまいります。
				目標	10,000回			
8	環境科学国際センター利用者数(累計)	1,151,072人	1,246,000人	実績	1,151,072人	未達成	【意見・質問】 ①未達成の理由が深堀りできていないのではないかな。コロナ禍の影響だけでなく、他に理由があるのではないかな。 【進捗状況の評価】 ・未達成であるが、R6年の増加数(53,930人)が、各年度の増加目標数(45,000人)を上回っていることは評価できる。	①R6年度の目標と実績の乖離は4,928人です。目標値については、年度末時点での累計人数で設定しています。過去の利用者数の推移と施策の効果を勘案して、R2年度末977,031人をR8年度末に1,246,000人と各年度で45,000人の利用者数増を目指し、目標値を設定したところです。コロナ禍の影響を受けていないH30年度の利用者数(53,341人)と比較し、R2年度(20,031人)、R3年度(31,793人)と大幅な減になったため、R6年度目標は未達成となったものであり、コロナ禍の影響と考えているところです。R6の増加数は53,930人であり、着実な回復を達成しており、また、コロナ禍後は各種講座等を積極的な実施しており、R8年度末での目標達成は十分に可能であると考えております。
				目標	1,156,000人			
9	県民調査報告件数(累計)	2,490件	5,000件	実績	2,490件	達成	【意見・質問】 ①クビアカツヤカミキリなどの被害の増加を考慮しても、目標値の設定は正しいかな。 ②クビアカツヤカミキリの目撃情報により、その捕獲が進んでいるのかの数値目標や、被害の増減についての数値目標が別途、必要ではないかな。 【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	①この目標値は、クビアカツヤカミキリ発見大調査など県が実施している県民参加型調査の報告件数(R4年度：1,000件)を踏まえ、県民からの報告数を毎年100件増加させることを目指して設定しています。県民調査報告件数の目標値は累計として表しているため、R5年度1,100件、R6年度2,300件(1,100件+1,200件)、R7年度3,600件(2,300件+1,300件)、R8年度5,000件(3,600件+1,400件)となっています。 ②クビアカツヤカミキリ発見大調査の報告件数には、被害木だけでなく、成虫の目撃・捕殺に関する報告や、被害がないという報告も含まれています。しかし、報告の内容は、被害木がどこで発見されたのか、どこで発見されなかったのか、また成虫をどこで目撃・捕殺されたのかという「場所(地点)」の報告が主となっています。その場所でも何頭目撃・捕殺されたのかや、その場所に何本被害木があったのかの数値の報告については、その場所で全て調査されているわけではないため、不正確な面が多分にあります。そのため、報告情報に基づいて被害や成虫捕殺の進捗を数値目標として設定するのは難しい状況にあります。
				目標	2,300件			
10	生物多様性地域戦略策定市町村の割合	15.9%(10市町)	22.0%(14市町村)	実績	15.9%	未達成	【意見・質問】 ①策定中や策定予定の市町村はないかな。 ②来年度から以下のような対応をされてはいいかな。 ・未策定の市町村にアンケート調査等を行い、策定の準備状況や意向の確認を行う。 ・検討中と回答した市町村には、県職員が直接出向いて、地域戦略策定に関する説明等を行う。	①県内市町村宛てへ地域戦略の策定状況等を照会しています。R7年6月時点で、未策定団体5市町村のうち、4市町(川越市、蓮田市、鳩山町、上里町)がR8年度末までに策定予定です。その他、2市町(熊谷市、川口市、行田市、本庄市、東松山市、羽生市、鴻巣市、深谷市、越谷市、入間市、久喜市、八潮市、三郷市、坂戸市、幸手市、白岡市、嵐山町、川島町、寄居町、松伏町)についても、策定予定はありとなっています。 ②策定予定がない市町村に対しては、地域戦略の説明を行ったり、状況に応じた情報提供を行うなど、策定に向けた支援を行っていきます。
				目標	17.5%			
11	生物多様性の認知度	67.8%	75.0%以上	実績	67.8%	未達成	【意見・質問】 ①増加割合が少なく、進捗が悪い。出前講座やイベントは重要だが、県民全体に対する訴求力は限定的ではないかな。	①野生復帰を果たしたムジナモをトピックとして、知事会見及び彩の国だよりの特集で集中的に情報発信を行いました。さらに、県民全体に対する今年度の新たな広報として、広報課で任命している「広報アンバサダー」(Instagramを活用して県のPR活動などを行う方)による、生物多様性にかかるSNSを計10本、発信しました。 また、認知度が低い30歳～50歳代のいわゆる現役世代を対象とした取組が必要であると考えするため、今年度は、埼玉県SDGs官民連携プラットフォーム内に、新たに「ネイチャーポジティブ推進分科会」を設置し、企業を含む様々な主体に生物多様性の意義や取組の重要性を理解してもらうためのセミナーの開催や、企業と自治体、保全団体等との交流の場を設ける取組などを行うこととしています。 さらに、埼玉県環境科学国際センター展示館(彩かんかん)で投影する映像について、「生物多様性」をテーマとした学習映像作成も予定しています。
				目標	72.0%			
12	自然ふれあい施設の利用者数	149,157人	157,500人	実績	149,157人	未達成	【意見・質問】 ①R5年に比してR6年は利用者数が減少しており、進捗が悪い。未達成の理由として、企画・設備に不満があるのではないかな。	①3施設とも例年、来客者に対しアンケートを実施していますが、イベントでは「親子で楽しい時間を過ごすことが出来ました」「虫を色々見ることができて楽しかった」、設備では「展示スペースやトイレ等、館内の清掃が行き届いており綺麗だった」等、一定の評価をいただいています。一方で、「野鳥観察イベントを増やしてほしい」等の要望もあったことから、イベント開催については、来客者のニーズに沿って更に充実した内容を可能な限り指定管理者が実施できるよう努めていきます。設備面については、「自動販売機等の水分補給ができるものが欲しい」の意見を踏まえ、来客者の利便性を更に向上させるよう努めていきます。
				目標	158,200人			

【令和6年度の指標実績に対する意見等一覧表】

No.	指標名	現状値 (2024(令和6)年度)	目標値 (2026(令和8)年度)	R6年度の実績値・目標値		R6年度目標達成・未達成	委員からの御意見・御質問等	指標担当課からの回答
13	トラスト保全地での自然観察会の年間参加者数	374人	440人	実績	374人	未達成	【意見・質問】 ①自然観察会の企画の見直しも必要ではないか。	①ナラ枯れ被害木を活用した薪割体験のイベントを新たに開催する等、自然観察会の参加者数増加を図るための工夫・見直しを続けてまいりたいと考えております。
				目標	420人			
14	「みどりと生き物」の学習コンテンツの利用状況（累計）	8,257回	10,000回	実績	8,257回	達成	【意見・質問】 ①目標値が低いのではないか。 ②理解度確認アンケートも必要ではないか。	①県生物多様性保全戦略では、生物多様性についての理解を広げるために、同認知度の目標値を「75%以上」としています。そのため、学習コンテンツの視聴推奨対象である小学4～6年生のいずれかの学年において、8割の児童が視聴できるようにすることを目指しています。本指標の目標値は毎年継続して達成していますが、目標を大きく上回る実績値ではなく(R5:101%、R6:112%)、今後もこれまでと同様に利用が増えるかは不確実であり、一過性ではない難易度の高い取り組みであることから、目標値は低くはないものと考えます。 ②これまで、活用状況や子供たちの理解状況などを把握するため、教員へのヒアリングなどを実施しました。今後、簡単に回答できるウェブフォームのアンケートを導入するなどし、より多くのアンケート結果を得られるように努めていきたいと考えます。
				目標	7,400回			
15	環境アドバイザー及び環境学習応援隊の数（累計）	227者	248者	実績	227者	達成	【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	
				目標	226者			
16	森林の整備面積（累計）	3,936ha	12,500ha	実績	3,936ha	未達成	【意見・質問】 ①森林環境贈与税の仕組みが良く分からないが、森林整備本体に使われなかったり、使い切れずに基金に組み入れられている実態があるのではないか。 ②間伐や下刈りなどの森林整備方法について、枯死木も多様な生物が利用するため、生物多様性保全の観点からは、ある程度残したほうが良いのではないかと考えるのがいかがか。	①森林環境譲与税は、森林整備以外に木材利用、人材の育成、普及啓発等に利用できるため、森林整備以外にも利用されています。また、事業執行の際の入札差金等が基金に積み立てられている他、次年度以降の公共施設への木材利用等のために基金に積み立てられている事例もあります。 ②森林整備にあたり、道路や遊歩道沿いなど、放置することで危険な枯死木については伐倒し、支障とならない場合は伐倒せずそのまま放置しています。いずれにしても生物が枯死木を利用できる状態であると考えています。
				目標	7,500ha			
17	緑の保全面積	569.3ha	569ha	実績	569.3ha	達成	【意見・質問】 ①R5年の実績値（568.9ha）に、R6年に行った緑地の公有地化1.3haを加えた570.2haが、R6年の実績値となるのではないか。 ②達成とあるが、増加数が少なすぎるし、そもそも目標が低すぎるのではないか？ ③保全した緑について、継続的に保全できる体制が必要ではないか。	①公有地化した緑地1.3haには、既に緑の保全面積に含まれている特別緑地保全地区等と重複しているものがあり、これらの面積を除くと0.4haの増加となります。 ②実績は既に決定していた上位計画（「埼玉県5か年計画（令和4年度2022～令和8年度2026）」、「埼玉県環境基本計画（令和4年度～令和8年度）」）の指標と同じ565haを目標値としています。R9年度からこれら計画が改定となるため、目標値の見直しを行う予定です。 ③公有地化の維持管理については、地元市町が行う旨を定めた協定を地元市町と結んでいるところだが、ナラ枯れ等の予期せぬ伐採需要に備えて緊急伐採費を確保しているところです。引き続き、地元市町と調整を図りながら良好な自然環境が確保できるように努めていきます。
				目標	565ha			
18	SAITAMAリバーサポーターズの個人サポーター数（累計）	21,893人	24,000人	実績	21,893人	達成	【意見・質問】 ①進捗状況等説明資料の「R7取組計画」中の「ネイチャーポジティ部」とは何か。 ②達成しているが、目標値が低いのではないか。	①「ネイチャーポジティ部」は、川の国応援団等が実施する、川での生物多様性の取組の支援（資材提供、環境DNA分析、企業マッチング等）と併せて、普及啓発を行うことにより、企業や地域住民の認知度向上や環境保全活動につなげる事業です。 ②個人サポーター数は、県内の川や水辺を愛し、環境保全活動に関心を寄せる方を対象に登録いただいた人数を基に算出しています。 目標値は、過去の市町村や環境団体が主催したイベントへの参加者数（年間平均2,700人）を上回る年間4,000人を目標値を設定しておりますが、今後は個人サポーター数を注視しながら、目標値の見直しを行ってまいります。
				目標	16,000人			
19	身近な緑の創出面積（累積）	179.6ha	250ha	実績	179.6ha	達成	【意見・質問】 ①優良緑化計画の認定だけでなく、計画内容の継続とその実績を表彰することも必要と考えるが、いかがか。 【進捗状況の評価】 ・順調に進捗している。	①優良緑化計画を認定する取組の中に、優良緑化計画から特に優秀な計画を「彩の国みどりの優秀プラン賞」として表彰する制度があります。本表彰の基準は、緑化完了後の維持管理の実施や独創性・先導性・積極性が評価の対象となっており、計画の継続性や実績も加味したものとなっています。
				目標	150ha			